

平成27年度アドバイザー派遣事業 研究レポート

- 1 研究団体名 江府小・日野郡小教研国語部研究会
- 2 研究テーマ 「これからの教育を考えるための研究会」
- 3 日時 平成27年10月28日(水) 13:45~16:50
平成28年 1月18日(月) 13:00~16:50
- 4 講師 白水 始(国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官)
- 5 研究の概要

公開授業をもとにアクティブ・ラーニングの考え方や指導方法について学び、どのように授業改善をしていけばよいのか研修した。

No.1 平成27年10月28日(水)

3年 算数「何倍でしょう」 6年算数「立体の体積」

授業の反省から

- ①子どもが解くべき問いは何だったのかが明確になっていたのか。
- ②既有知識とゴールの見積もりは適切だったか。

白水先生の講義より

新しい学習指導要領の方向性

ねらい : 社会に開かれた教育課程

資質・能力の基本 : ①主体的に判断できて②多様な人と協働しながら③社会で問題を発見・解決できる子供

アクティブ・ラーニング : 特定の方の普及ではなく、三つの学びの観点を押さえた学習環境の研究、
方法選択、工夫・実践

アクティブ・ラーニングを見る視点(3つの学び方)

1) 問題発見・解決を通して深く学ぶ

- 結局子どもが解くべき問いはなんだったか?
- 提示した課題(問い)や資料の意図は伝わっていたか?
- 既有知識(既にできること)とゴールの見積もりは?(言ってほしいこと)

2) 対話や外界との相互作用を通じて、考えを広げ深める

- 「話し合くと、よりよい考えや答えが出る」と実感できる課題だったか?
- 考えを外化し、話し合っ、よりよい考えや答えを手に入れていたか?

3) 学びの変容を捉えて、次につなげる

- 同じ課題への回答を授業前後で見比べるなど、児童自身が「進歩(変容)」を捉える手立てはあったか?
- 教師側が児童の学びの変容を捉えるデータはあったか?

参加者の感想より

- ・解くべきことは何か。自分の授業では問いが明確ではないと反省しきりです。自分の視点の持ち方をもっと多角的に広げていかなければならないと感じました。
- ・今日はゴールをイメージすることの大切さを知りました。何を子どもたちに問うのか、何を話し合いの論点にするのかまだまだ実践できていないので、取り組んでいきたいと思います。

No.2 平成28年1月18日(月)

公開授業 6年「ヒロシマのうた」(ジグソー法)

参加者が、児童一人一人を担当して児童の発言やエキスパート、ジグソー場面の話し合いの様子を見取り、担当者が児童のグループになって話し合いを進めた。テーマは「同じ問いを共有し、同じ教材で学んでいる子どもたちは、みんな全く同じペースで同じように理解するのか?それとも子ども一人ひとりの分かり方は少しずつ違うものなのか?」



担当した児童のグループ分けと同じグループになり、児童の分かり方について話し合った。なぜ分からなかったのか、どのようにして理解したのか意見交換がなされた。



話し合う中で、子どもの分かり方はそれぞれに異なっていることや子ども同士が話し合いの中で問題を解決することができることが実感できた。そして、子どもが、自分の考えを持ち、話し合うための支援のあり方についても充実した意見交換がなされた。

白水先生の講義より

学習科学とは

- ・人がもともと持っている学びの力はどんな環境によって引き出されるのかを考える研究分野
- ・「考える」だけでなく、実際に、学習者の視点から各自が生まれつき持つ学ぶ力を引き出せる授業実践
- ・子どもも先生も周囲の大人も、みんなが持つ「学び力=賢くなる力」を引き出して社会全体を前向きで建設的なものにしようとする研究

今までの後ろ向き授業ではなく、前向き授業をしていくことが重要

前向き授業のために

- 1) 子どもの学ぶ力(話したり聞いたり考える力)を信じる。
- 2) 大人が責任を持って「答えを出すべきだと考える問い」を決め、自信を持って「子どもたちが踏み台にできる視点や考え方」を提示する。
- 3) 子どもが「話しながら考える/考え直す」過程を見取って、次の授業につなげる。

変化を評価する

- 1) 事前事後記述→達成度だけではなく、事前から事後への変化を見取る。
- 2) 子どもをじっくり見て考え方(理解)の変化を追う
→なぜ変化したのかが見えてくる。→全員が考える力を持ち、一人ひとりが多様な考えをすることが見える。
→授業を変えたいくなる。子どもの力を一層引き出したくなる。
- 3) 教えたいことと子ども中心の学びを同時達成する授業デザインへ

アンケートより

- ・普段どれだけ児童の理解の仕方、分かり方を捉えてなかったかと反省しました。そこから、ゴールに向けての学ぶ環境+学び方を考えて教材研究していきたいです。
- ・問い(課題)の立て方、資料の作り方など授業を通して学びました。
- ・後ろ向きの授業ではなく、前向き授業を考えたいと思います。